

心筋梗塞治療など解説

西胆振の医師ら情報共有

製鉄室蘭病院

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「医療連携カンファレンス」が、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開かれ、担当医師らが「急性心筋梗塞クリティカルパスあんしん連携ノート」への取り組みや、がん手術の実績などを解説。出席した西胆振管内の医療関係者らは地域医療に関わる現状などを共有した。地域医療連携の推進と

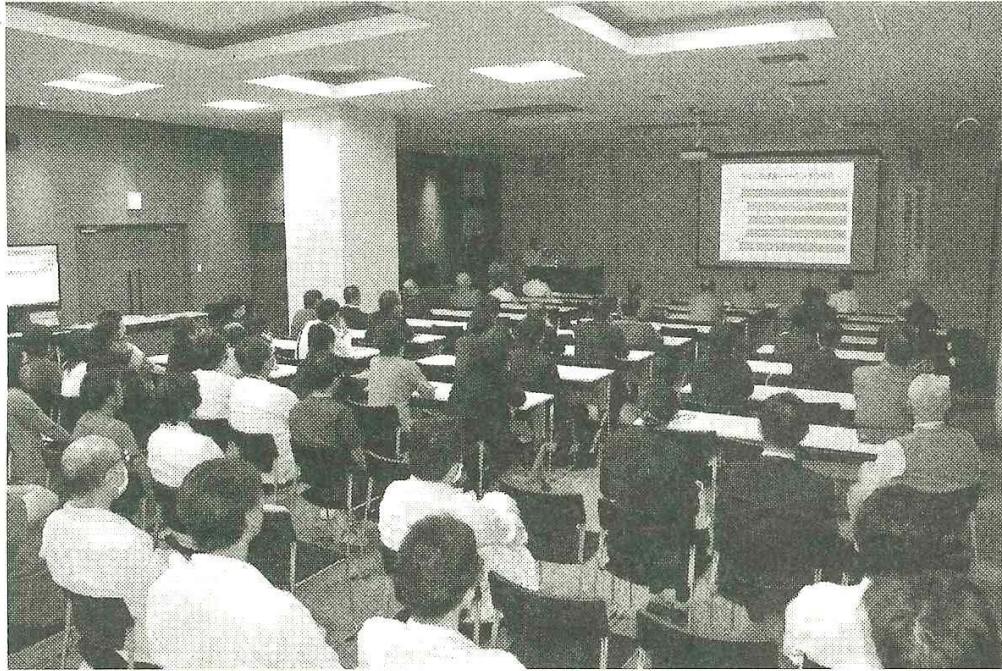
情報共有を目的に開かれ、同病院の医師らのほか、西胆振管内の医師や開業医、クリニックの関係者ら80人が出席。同病院の中村裕一循環器内科長、仙丸直人副院長(外科・消化器外科長)が解説した。中村循環器内科長は、狭心症や心筋梗塞などでカテーテルを用いて血管の詰まりを改善する治療・経皮的冠動脈形成術(P

CI)を昨年290例(緊急PCIは49例)実施したことを説明。急性心筋梗塞クリティカルパスあんしん連携ノートの役割や、他院との協力的体制などについても解説した。

一方、仙丸副院長はがん治療実績を中心に説明。昨年の悪性疾患手術の件数(計311例)が10年前と比べて1.3倍となっている現状や、昨年の胃がん手術の約77%、大腸がんの約93%を、身体の負担が少ない腹腔鏡手術を適用したことなどを解説した。

このほか、前田病院長は入院症例数が増える中で平均在院日数の短縮を図っている態勢などを説明。入院・救急搬送患者を遅滞なく受け入れ、質の高い医療を提供するため、今月30日に一部が稼働した「地域医療介護ネットワークシステム」『スワンネット』も積極的に活用し、「切れ目のない連携を進めたい」などと強調した。

(松岡秀宜)



心筋梗塞やがん手術などの情報共有を図った「医療連携カンファレンス」